平成29年度 文京区立明化小学校 授業改善推進プラン

第6学年

	児童の実態	指導のめあて	具体的な授業改善の方法	2学期評価	3学期評価
	○話し合いの場面で、自分の思いや考えをもって話し合える児童と、自分の意見をなかなか言い表せない児童との二極化が見られる。	○自分の思いや考えを明確に 相手に伝えられる児童を育て る。	○自分の思いや考えを相手に伝える方法を発言だけにせず、文章表現やノートのまとめ方なども紹介することで、相互評価、自己評価させ児童に自信をもたせる。		
	○全国学力調査では古文の言葉 や文章の読解の正答率がやや低 い傾向にあった。		○音読の際に音読のポイントを明確に示し、音読の練習ができる時間を確保する。		
	○文を読んで理解する力や、大事な情報を落とさずに聞く力はほとんどの児童が向上している。書くことについて、思いついたまま書く文章ではなく、構成を考え、事実と自分の思いを区別して書こうとする意識が育ってきている。	○大事な情報を落とさず、正しく読んだり聞いたりする力を さらに身につける。	○文章の中で重要な部分に気が付けるよう線を引いたり、互いに確認させたりする。そして得た情報を交流、発表し合ったり、相互評価、自己評価、修正をさせたりする。		
社会	○社会的事象に関心をもち、歴 史に関しての広く豊かな知識を 基に学習している児童がいる。	○日本の歴史、さらには憲法 、政治等への興味関心をさら に高めていく。	○身近な話題、事象もしくは前 の時代とのつながりからから歴 史、憲法、政治等とのつながり を重視することで、学習への興 味・関心を高める。		
	○課題の捉え方や学習内容のまとめ方が浅い。	○資料の読み取り等基本的な 力を育て、課題に対して広く 深く考察する児童を育てる。	○資料の読み取りや学習のまとめで、わかったこと、思ったことを交流させ、個々の気付きを広める。話し合いを通して考察を深める。		

	1			T
	○四則演算は意欲的に取り組む 児童が多く、発展的な問題にも 積極的に挑戦する。		○児童の実態に合わせ、習熟度 別に課題を設定するよう努め る。	
	○全国学力調査では、高い正答率を示している半面、1より小さい数をかけた積を数直線で表す問題では、東京都の平均回答率を下回っている。	など、基礎的な学習の定着を図		
	○集団解決の場面で、数字の操作だけで終わってしまい、考え方を言葉で論理的に説明する力が不十分である。		○既習事項を活用する場面を大切にし、互いの考えを共有させることで、個々の思考の領域を広げていく。	
	○実験や観察に興味・関心をもって学習に取り組む児童が多い。		○児童が学習内容について疑問をもつような実験や資料の提示を行い、自ら立てた仮説を検証するために「何を調べるかを」 意識しながら、実験方法を考えるように指導する。	
	○実験結果から考察する力にまだ課題がある。	○ノートに実験方法や結果を 記録し、記録をもとにデータ を比較したりまとめたりする ことで、考察する力を育てる	○ノートの書き方を指導し、結果を表やグラフなどに整理することで、考察しやすくなることを体感させる。	
体育	○基本的な運動の技能面について、個々の児童に定着の差があり、技能をより上げようと工夫する態度や思考が十分でない児童もいる。	ともに、自ら運動し、工夫す ることに喜びを感じる児童を	○基本的な動きについて個々に めあてをもたせ、学習の様子を 観察し、賞賛、励まし支援等を 行う。	

	○フェアプレーの精神で気持ちよくゲームを楽しむことができる児童が育ってきている。だが、準備や片付けに意欲的に取り組む児童が固定化している。	い、皆のために自分ができることを考え行動することがで	○チームプレーでのめあてやめ あて実現の方法、個々の役割等 、具体的に立てさせ、各々の動 きの長所短所を観察、意見交換 させたり相互評価させたりする 。		
--	---	----------------------------	---	--	--